

テニス用語の邦語化がおこなわれた背景

The Background of the Japanese Translation of Tennis Term

後藤 光将

GOTO Mitsumasa

1. はじめに

昭和 17 (1942) 年 4 月に大日本体育協会が解散され、発展継承する名目で大日本体育会が発足した。各国内競技連盟も相次いで解散して、大日本体育会の一部会として継承された。昭和 18 (1943) 年 3 月、同会は英語を用いたスポーツ名を禁止した。同時に、各種目の用語が邦語化された。この流れの中、テニス用語も邦語化されることとなった。昭和 19 (1944) 年、大日本体育会により『昭和十九年度 庭球規則 附邦語化の庭球用語、審判の心得』が発表されたことに一連のテニス用語の邦語化の作業は一応の達成を見たといわれる。以下、テニス用語の邦語化の流れを辿ってみる。

2. テニス用語の邦語化がおこなわれた理由

2-1. ルールの平易化による普及のための措置

[昭和 10 (1935) 年～]

昭和 10 年から『ローンテニス』において、幾つかの邦語化された用語が紹介されたが、この段階では反英米的あるいは国粹的な論調は見られず、それまでの英語表記のテニス用語を日本人に理解しやすいように、より平易に表記したものと思われる。

2-2. 時局に応じた国粹的措置 [昭和 15 (1940) 年～]

昭和 15 年から『ローンテニス』および『テニスファン』ここにおいて、審判用語の邦語化を早急に考案すべきことを、反英米思想のもと明確に言及された。ま

た、「新体制」に対応するのではなく、我々「庭球人士」が自発的に邦語化を推し進めることを主張していることから、国粹的な論調が色濃く表れていた。

2-3. テニス廃止論への対抗措置

戦局悪化に伴い、昭和 18 (1943) 年 3 月、文部省により「戦時学徒体育訓練実施要綱」が制定され、同年度に予定していた学生テニス界の公式戦はほとんど開催されなかった。また、大日本学徒振興会は体力錬成 11 種目を指定したが、テニスはそこから除外された。同会の指定種目に外れたことは、原則として学校におけるテニス活動の場が消滅することを意味していた。その後もテニス関係者は、唯一のテニス専門誌『日本庭球』を利用して、テニスの必要性を唱える中でナショナリスティックな側面を強めていった。

ここで注意すべきことは、これらの論調に反英米色が必ずしも表れているわけではないということである。つまり、テニス用語の邦語化の第一の目的は、英語禁止ではなく、テニス廃止論に対する防波堤としての役割であったと考えられる。当時の我が国のテニス活動そのものの存続に深く関連付けられていたのであった。

3. テニス用語の邦語化の具体的な展開

3-1. 審判用語の邦語化 日本庭球協会審判用語委員会 (昭和 16 年)

テニス用語の邦語化が諸所で主張されたことや、時局が進展するにつれ敵国英国発祥のテニスを無用とする論調も出てきたこともあり、昭和 16 (1941) 年 9 月 13 日、日本庭球協会理事会において審判用語委員会が設置された。明治神宮体育大会庭球競技において試験的に実施したところ、概ね「豫想外の好評を博した」ようであった。その後、決定案が作成され、昭和 17 (1942) 年度より一般に実施された。また、テニス用語全般の邦語化は今後の課題とされた。

3-2. テニス用語全般の邦語化 日本庭球協会庭球用語委員会 (昭和 17 年)

審判用語委員会は、審判用語に関する邦語化の考案、および、翌年度 [昭和 17 (1942) 年度] からの全国実施という当初の目的を達成した。そのため、今後の課題とされたテニス用語全般の邦語化のため、昭和 17 (1942) 年 3 月 20 日の理事会において、同委員会は「庭球用語委員会」と名称が変更され、新委員が任命された。人数的には 10 名から 12 名に増員され、委員長の安部民雄を含め 7 名が重任となった。重任した委員の 1 人である福田雅之助の著書『庭球 其の本質と方法』[昭和 17 (1942) 年] と大日本体育会『昭和

十九年度 庭球規則 附邦語化の庭球用語、審判の心得』[昭和 19 (1944) 年] のテニス用語の邦語化には、類似する用語が多いことや、より邦語化の精度が高まっていることから、昭和 17 (1942) 年 7 月に刊行された福田の『庭球 其の本質と方法』で発表された邦語化用語は、邦語化の最終形態ともいえる『昭和十九年度 庭球規則 附邦語化の庭球用語、審判の心得』の叩き台となったといえる。

4. おわりに

テニス用語の邦語化は、当時の時局に踊らされ、軍部に迎合した結果生じたネガティブな事柄と一面的に断定することはできない。邦語化の理由としては、テニス廃止論への対抗措置という側面が実質的には大きかったのではないかと思われる。事実、邦語化に深く関わった安部民雄や福田雅之助らは、渡英米経験もあり国際的視点をもったリベラルな考えを持つ人物として名高い。

当時の英語禁止論の風潮下で軍部に迎合して邦語化を主張する者、純粹にテニス存続を思って苦肉の策として邦語化を主張する者、両者の起点は異なるがその着点（テニス活動の存続）は同様であった。つまり、当時のテニス用語の邦語化を妨げるものは皆無に等しく、日本テニス界の統轄組織である日本庭球協会および大日本体育会庭球部が全国的に邦語化を通達・実施したことは、当時の状況下では一定の必然性があったといえる。